



Japan Intellectual Property Association

理事's eye

佐野 裕昭 日本知的財産協会 副理事長(2020年度) / 住友電気工業株式会社 知的財産部長

わが社のこだわり

パナソニック株式会社

A Better Life, A Better World

「いい暮らし」への想いが、未来を変える。

ZOOM UP

関東金属機械部会

JIPA通信

新プロジェクト(PJ)のご紹介



Summer  
2021  
VOL.18

事業環境の先読みが難しい時代だからこそ、JIPAの活動を通じて視野を広げ、能力を高めるとともに、新たな分野へ挑戦することを期待

### JIPA理事としての活動

産業が成熟し、新興国の生産

キヤバシティーが拡大して、モノが売れない時代となったことを受けて、2018年に経済産業省と特許庁は「デザイン経営宣言」を公表し、新しい時代の製品価値の創出を提言しました。ユーザーが売れる製品を決める時代には、技術仕様に對しデザインやブランドの重要度が高まっています。私は、ちょうどこの時期に2016年から3年間、理事として商標委員会と意匠委員会を担当しました。この3年間を振り返ると、商標委員会は国際会議への参加が増え海外の関連機関との連携活動が活発化したと思います。海外で、日本企業のブランドを活用しやすい環境を整えるための活動で意義のあるものでした。また、意匠委員会では、2019年5月公布の意匠法改正への取り組みが重要であったと思います。これは、保護対象の拡大や関連意匠制度の拡充、保護期間の長期化などを含む大改正で、JIPAでは意匠委員会を中心に他の委員会、業種別部会に参加を求め、議論を行い、他団体や特許庁との意見交換を繰り返して、主

体的に法改正への関与を行いました。

### 激変の時代とJIPA活動

ところで最近では、技術面ではデジタルトランスフォーメーション、政治面では米中間の経済安全保障衝突、社会面では新型コロナウイルス感染症の蔓延、大きな事態が立て続けに起こっており、企業にとって事業環境の先読みが難しい時代となっています。JIPAでは、各国政府の産業政策や規制、産業構造の変化、会員企業の新型コロナ禍への対応状況などに留意しつつ、日本の産業強化を目的とした官公庁への施策提言や意見具申を進めています。委員会やプロジェクト、そして理事会においても、企業や分野の壁を越えて世界情勢や各国制度などの共通課題の議論（とその後の懇親）の場が提供されていることが、JIPAの素晴らしいところだと思います。環境変化は、企業が事業構成をアップデートしたり、新分野に挑戦したりする機会でもあります。このような時期だからこそ、JIPAでの活動が参加者個人の視野を広げ、所属企業の能力を高めることに期待しています。



## 「JIPA理事としての視点」 「知財部門のリーダーとしての視点」 2つの視点で深掘りする知財業界の今

佐野 裕昭 日本知的財産協会 副理事長(2020年度)  
Hiroaki SANO 住友電気工業株式会社 知的財産部長

知的財産部門は、客観的に産業構造の変化を見据えて、会社を牽引する存在に変わらねばならない

### 技術開発と新製品、そして知財

私の所属する住友電気工業(株)は典型的な製造業で、電力・光通信ケーブル・機器、自動車用電線、切削工具、化合物半導体、交通管制・通信機器等の製造販売を行っています。電力、通信、放送、自動車、エレクトロニクスなど多くの産業分野に基幹部品を提供しています。多くの日本企業と同様、技術開発に注力し製品の機能や品質といった技術を武器として事業を拡大してきました。ところが、近年は、産業のグローバル化に伴い、新興国の機能より費用対効果を重視する市場が拡大してきたため、技術力だけでは差別化が難しくなっています。市場に受け入れられる品質の製品を、受け入れられるコストで製造することが求められています。

品市場を開くための技術標準化、を取り込み、事業と一体となった知的財産活動を目指しています。最近では、これらに加えて、データやオープンソースソフトウェア、技術輸出規制など、技術と法制度の境界で多くの課題が生じてきており、知的財産部門として取り組みを進めています。従来の知財活動とは違った領域で大変ですが、事業の継続的発展に必須の活動と考えており、やりがいを感じています。

一方、このような新たな領域、あるいは活用面が目ざれることが多い最新技術への取り組みに際しては、事実上、依拠したものの考え方、視点を持つことが重要と感じています。例えば、IoTやデジタルトランスフォーメーションの実現には莫大な電力供給や高速高効率のネットワーク機器が必要となりますが、こうしたボトルネックとなる現象を定量的に知ることが、当社のような製造業が次の事業を掴む契機となると考えます。知的財産部門が有する客観的な情報収集と分析能力が、こういった活動に寄与できるならば素晴らしいと思います。

### 知的財産業務の外縁拡大

このような新機能、高品質で稼ぐことが難しい時代には、企業の技術戦略も変わり、知的財産部門の業務も変わります。弊社では、知的財産部門の業務として、①自社発明を秘匿管理して他社に利用させない営業秘密管理、②他社への権利行使を意識した出願権利化、③自社製

## わが社のこだわり [ パナソニック株式会社 ]

A Better Life, A Better World  
「いい暮らし」への想いが、未来を変える。

徳田 佳昭 Yoshiaki TOKUDA  
パナソニック株式会社 知的財産センター所長

**Panasonic**

A Better Life,  
A Better World



当社は1918年の創業以来、経営理念に込められた「事業を通じて、世界の人々の生活をより豊かで、より幸福なものにする」という考え方を、あらゆる行動の根幹に置いています。私たちは、家電から始まり、時代に合わせて事業の姿を変えてきましたが、創業時から大切にしているのが、人々の「暮らし」への想いです。

「暮らし」をより良いものにするため、より高機能、より上級なものを提供するという、いわば「アップグレード」がこれまでのやり方でしたが、これからは一人ひとりの価値観に向き合い、製品やサービスをより良い姿に更新し続けることが重要になると考えています。こうした「一人ひとりにフィットしたアップデートを実現していく」という「暮らしアップデート業」がパナソニックの存在意義だと再定義し、暮らしアップデートを多様な空間・領域へと広げ、「より良い暮らし」と「より良い世界」の実現を目指しています。

### 家電にこだわり培ってきた技術を活かし、 「より良い暮らし」と「より良い世界」を実現

当社は、創業以来こだわってきた、お客様の暮らしに寄り添うという「家電のDNA」を継承しながら、住宅、自動車、ビジネスなど多様な空間・領域で様々なパートナーとともに、お客様一人ひとりにとっての「より良い暮らし」を追求し、拡げています。そして「より良い世界」の実現に向け、「2030年の当社CO2排出量実質ゼロ化」など、地球環境問題の解決に最優先で取り組みます。

例えば現在、新型コロナウイルス感染症の流行により、世界中で「暮らし」が様変わりする中で、家電製品で培ってきた技術である「ナノイーX」や「ジアイーン」の搭載商品拡充を通じて、除菌や換気に対する需要への対応を強化しています。更に、非接触での個人認証システムや検温システムの提供等、公衆衛生の確保という健康面に加え、快適性等も考慮して、空調・空質を融合したソリューションを提供しています。また、ロックダウン等によりサプライチェーン

の分断が生じ、商品の安定供給のための課題認識が高まるなど「社会」が変化する中で、「モノを「造る」「運ぶ」「売る」現場に発生した経営課題に対応するお客様に対し、センシング・ロボティクス・エッジデバイス等の技術を活用した「自律型サプライチェーンの実現」に向けたソリューションを提供しています。

### 新たな価値を創り、育て、事業を通じて 社会に貢献する知財活動

顧客ニーズの多様化、科学技術の進展、業界構造の変化など世の中が大きく変化する中、私たち知財の役割もまたアップデートされています。かつて「モノ」を対象に製品の事業を守る活動が中心であった知財活動は、サービス、そしてソリューションを対象とした「コト」へと拡大し、他社との共創により事業を生み出し育てる活動にも拡がってきました。知財がハブとなり社内外の「知」のミックスにより「新たな価値を創る」ことを実現すべく、例えばアメリカではベ

ンチャーキャピタルと連携して、ベンチャー企業へ知財コンサルを提供する事業を始めたり、東南アジアに遊休特許を持ち込んで、別分野での新規事業創出に繋げたり、日本では新規事業アイデアを動画でアピールするIP Promotion活動「チザイ座」を始めるなど、失敗を恐れずに様々なチャレンジをしています。

### JIPAに期待すること

各専門委員会やプロジェクトへの参画を通じ、他社様の知財活動から多くを学ぶだけでなく、ユーザー代表としての国際会議参加や各国政府機関との意見交換など、貴重な現場経験を積めるという点で、当社知財部員の人材育成に大きな役割を果たしていると考えています。

日本だけでなく各国の知財制度がタイムリーに改善されていくことが重要ですので、積極的な意見発信を通じて、より良い知財制度の実現に引き続き貢献されることを期待します。



IP Promotion活動  
「チザイ座」



## 柔軟かつ会員に有益な部会運営を志向します

関東金属機械部会について報告します。関東金属機械部会は、東日本の機械業、金属業の会員(輸送力・動力用機械系企業76社(うち他業種2社)、機械器具系企業72社、鉄鋼・金属系企業26社(うち他業種2社)、合計174社(うち他業種4社))で構成されています。

関東金属機械部会は、例年年間5回の部会を開催しております。第1回、第4回、第5回部会は講演会、第2回は工場見学+講演会、第3回は宿泊部会です。しかし、COVID-19の影響で、2020年度は第2回の工場見学+講演会、第3回の宿泊部会が開催できず、部会開催は3回となりました。たとえば2019年度の第

3回部会では石川県のコマツ粟津工場様を訪問し、コマツ様の知財活動に関するご講演および工場見学を開催しました。見学した工場は、省エネ・総エネを取入れ、また将来のレイアウト変更に対応可能で、働きやすさを追求した工場であることが理解できました。その後近隣の宿泊施設に宿泊し、参加会員間の情報交換、親睦を深め、有意義な部会を開催できたと考えています。

また、2020年度の部会運営では、第1回部会、第3回部会がWeb配信による部会開催、第2回が参集による部会開催・部会録画のWeb配信となりました。Web配信による部会開催や部会の録画は当部会にとって初めての試みでしたが、JIPA事務局サポートの下、試行錯誤しながら部会開催することができました。部会参加者によるアンケートでは、Web配信形式の部会開催に関して「参加しやすい」というご意見を多数頂戴しました。一方Web配信形式の部会

開催は会員相互の情報交換・意見交換がやりづらいという面があります。この辺りは、会員の皆様の意見を聞きながら部会運営について引き続き検討したいと思います。

講演会の内容は、参加者によるアンケートで要望の多い、企業の知財活動、外国情報(特に中国関係)、IPランドスケープなどの知財戦略を中心に選定しております。この先生の話をお聞きしたいというリクエストがございましたらアンケートあるいは幹事までご連絡ください。なお講演会の内容は前記3種類以外でも結構です。ぜひご要望をお寄せください。

2021年度の活動方針は、「多くの会員が積極的に参加できる部会運営、有益な知財情報を提供し、会員が相互に意見交換できる機会を提供する」とします。世の中の変化に対応しつつ、会員の皆様のためになる部会運営をしたいと思っています。



2020年度第1回部会:Web配信の講演会

## JIPA通信 新プロジェクト(PJ)のご紹介

本年度から発足する2つの、新たなPJについてご紹介します。

### SDGs PJ

昨今の重要性に鑑み、第4次産業革命PJから独立しました。“知財をSDGsに役立てる”を基本コンセプトにWIPO GREEN<sup>®</sup>や、環境技術に関する情報を積極的に会員企業に提供し、各企業の活動をサポート致します。

※ JIPAが提案した技術供与のマッチングの場で、季刊じば WINTER2020にてご紹介しています。

### グローバル模倣品対策PJ

アジア戦略PJをリニューアルしました。

模倣品は既にアジアだけの問題でなく、全世界貿易の3.3%を占めると言われる程、グローバルな問題となっています。会員企業からもその対策が望まれるところです。

これらのPJにご興味がありましたら是非PJにご参加下さい。

## 表紙の写真は…

# 「BLUE WATER」

キヤノン株式会社 知的財産法務本部長室  
渡辺 崇仁

大海を悠々と泳ぐウミガメは、ダイバーにとってアイドル的な存在です。ただ悲しいことに、近年は海洋プラスチックゴミ問題を象徴する生物にもなっています。ちょうど1年前、レジ袋の有料化が始まりました。その後、メディアでSDGsや環境問題の特集等もあり、我々一般市民の意識も変わりつつあります。一方、日々の仕事では直接的な貢献が難しい、と歯痒い思いをされている方も少なくない筈。ここは一つ視野を広げて、産業の発展のみならず、地球の未来にも思いを馳せつつ、知財というものを捉え直してみるのもいいかもしれません。

本誌では、季節感があり、技術、特許、知財に関連がある表紙写真を募集しています。写真と説明文を[会誌広報グループkikansi@jipa.or.jp宛](mailto:kikansi@jipa.or.jp)てにお送りください。また、取り上げて欲しいテーマがあれば、お気軽にご連絡ください。